

学童保育の待機児解消は急務！

市内の学童クラブに入れなかった児童の保護者から、市長に対して学童保育の「入所取り消し」に対する異議申し立てと、これに関する陳情が提出されました。

いま青梅市では、194人（うち障害児31人）もの児童が学童保育の入所を希望しているにもかかわらず、定員の空きがなく入れない事態となっています（4月1日現在）。今回の異議申し立ても、こうした事態の中で起こってしまった事例であり、市として学童保育の定員を大幅に増員する措置を早急にとりつつ、現在の受け入れも柔軟に対応することが必要です。

市議会・福祉文教委員会で藤野ひろえ議員は、「これは陳情者だけの問題ではない。今年度から国の方針で6年生まで入所可能にしたにもかかわらず、対応が間に合っていないのは問題。待機児解消に努めるためにも、実態の調査を行うべき」と求め、委員会として現状の調査・視察をすることになりました。



梅の里再生

危険性が指摘されている農薬の使用はあらためるべきです

改選後、最初に開かれた5月議会では、ウメ輪紋ウイルス被害の対策である「梅の里再生計画」をめぐる、梅郷など強化対策地区で散布された農薬の使用が問題になりました。

発端は、3月に決定した国の予算でした。国がこの「梅の里再生」のために約4千万円の対策予算をつけたことについては、評価されるべきものではありませんが、問題はこの予算を使って行われる「対策」の内容でした。「ウメ輪紋ウイルスを媒介するアブラムシを退治するため」として、ネオニコチノイ

ド系と呼ばれる農薬が使用されたのです。この農薬は、近年広がっているものですが、自然環境や人体など様々な危険性が指摘されており、EUでは暫定的に使用制限を決めるなど、世界的に問題になっているものです。

ネオニコチノイド系の農薬は、11月と来年3月に再度使用される計画になっています。日本共産党市議団は、危険性が指摘されている農薬の使用は中止し、デンブン系の農薬に切り替えるなど別な方法を模索すべきことを求めました。



ネオニコチノイド系農薬を散布する様子（4月22日撮影）

日本共産党 青梅市議団

議 会 報 告

生活なんでも相談受付中



藤野ひろえ
090-4003-9987



田中みずほ
090-6115-0229



みねざき拓実
070-5590-6081

CV-22 オスプレイ 横田基地への配備は撤回を

日米両政府は、5月12日、米空軍の垂直離着陸輸送機「CV-22 オスプレイ」を横田基地に配備する方針を発表しました。2年前、横田基地にオスプレイの配備が検討されているという報道があった際には、青梅市をはじめ、周辺自治体が配備検討の撤回などを求める決議などをあげました。しかし、今回、一方的に配備を発表し、怒りの声が広がっています。

日本共産党青梅市議団は、青梅市に対して「横田基地へのオスプレイ配備に反対する取り組みを求める要望書」を提出しました。そして、みねざき拓実議員がこの問題を一般質問でとりあげ、日本政府に対して強い態度で配備の撤回を求めるべきことを主張しました。



6月6日、沖縄・普天間基地に配備されている米海兵隊のMV-22 オスプレイ3機が青梅市上空を通過しました。

横田基地への配備が計画されているCV-22 オスプレイは米空軍の所属で、基本的には同型ですが、空軍の「CV」の方が、事故率は3倍も高くなっています。より「過酷」な飛行をすることが原因とされています。

青梅市議会全会一致で 意見書可決

青梅市議会は6月19日、「横田基地へのCV-22 オスプレイの配備に対する情報提供及び安全対策を求める意見書」を全会一致で可決しました。

「CV-22 オスプレイを横田基地にも、日本のどこにも配備許すな」緊急座り込み集会（5/17）に市議団3人そろって参加しました。





藤野ひろえ

国民健康保険税は1世帯年1万円の引き下げを

国民健康保険の加入者は、低所得者や高齢者が多いにもかかわらず、国は年々国庫負担の割合を縮減しています。その結果、青梅市でも2年に一度の割合で保険税が値上げされてきました。国は、さらに「広域化」を名目にした保険税の引き上げや、入院給食費の引き上げをする方針であり、市民生活の現状を鑑みれば、そのまま受け入れるわけにはいきません。

青梅市が国の「言いなり」に市民負担を引き上げ続けられれば、保険制度の崩壊を招きかねません。2年に一度、引き上げる方針はやめ、せめて、1世帯年1万円の引き下げをするべきです。

市長は、国の方針について「影響はまだ不明」としながら、市民の負担軽減にむけた努力については消極的な姿勢を示すばかりでした。このままでは、来年値上げがされかねません。一緒に声をあげていきましょう。

中学生の通学費が年10万円！市内遠距離通学費の補助を

公共交通機関を使って市内の遠距離通学をする小学6年生までの通学費について、市が全額補助する制度が、今年4月に実現しました。

しかし、中学生については補助がありません。御岳山地区など、バスや電車を使っている生徒は、年間で10万円ほどの自己負担のもとに西中学校に通学しています。義務教育であるにもかかわらず、これほどの通学費の自己負担があることは、直ちに是正すべき事態であり、市が補助をするべきです。市長の答弁は、「今後の課題」でしたが、いま現在すべての生徒に全額補助をしても200万円程度で実現できます。ひきつづき、ただちに補助をするよう求めます。



田中みずほ

市民の足の確保 コミュニティバス実現を

「足の確保」の要望は、「高齢化社会」のもとますます切実になっており、コミュニティバスの導入が早急に必要です。多摩26市のうち、コミュニティバスが実現していないのは青梅市などごくわずかです。

この問題では、青梅市は「都バスの赤字補てんに1億円以上使っているから、さらにコミュニティバスを運行するのはむずかしい」と言いますが、全市的に市民の足の確保に早急に力を入れなければ、市民生活がなりたたなくなってしまう。しかも、都は都バスをさらに減便しているのが現状です。

田中議員は、都バスを運行している都の交通局が、青梅・奥多摩の水力発電により年間で3億円もの利益をあげていることを指摘し、東京都による援助をもっと強めるように市民と力をあわせて強く求めるように迫りました。

いじめ、不登校…対策は急務 スクールソーシャルワーカー

青梅市では不登校児童・生徒数が小学校で44人、中学校で131人（2013年度）で増加傾向にあり、対策が急がれます。

田中議員は対策の一つとして、スクールソーシャルワーカーの増員と待遇改善を求めました。スクールソーシャルワーカーは、いじめや不登校、児童虐待などの課題に対応するため、教育に関する知識に加えて、福祉の知識を有する専門家で、国や都は予算を増額して増員を促しています。

現在、小平市では各中学校に配置されていますが、青梅市では、市全体で2名しか配置されていません。



みねざき拓実

豊かな自然を生かし 子どもの遊び場整備を

風の子・太陽の子広場のアスレチック施設は老朽化により3年前から使用禁止になっています。補修や新設するなどの整備をして、再び子どもたちが遊べるようにするべきです。

アスレチック施設は、近隣自治体にも少なく、自然豊かな青梅市の特徴を生かす施設です。自然の中で楽しく遊んだ子供は、一生忘れられない思い出をつくることができるでしょう。子どもたちの生き生きと元気で活力に満ちた声が聞こえてくる風の子・太陽の子広場にするため、市民のみなさんと力を合わせて実現にむけて取り組みます。

また、バーベキュー施設使用の申し込み案内の改善について要求したことについては、「改善する」と市長の答弁がありました。

危険なオスプレイ 横田基地配備は許せません

※内容は一面に記載



「マイナンバー」制度は見直しを！ 補正予算案に反対しました

6月議会に提出された補正予算案は、いま問題になっている「マイナンバー制度」を実施するための「システム構築」や、生活保護の住宅扶助の削減のための「システム変更」費用などが計上されていました。日本年金機構の情報流出問題など、「マイナンバー制度」そのものに対する不安が広がっています。こうした制度を無批判に推進するべきではないという立場から補正予算案には反対しました。